

桂川っ子

VOL.19.

安心安全な学校で学習を!!

桂川町教育委員会
教育長 佐谷 千香子

9月29日付「西日本新聞」に3年前まで荒れていた福岡市の女子高等学校の記事が載っていました。

「学校は学びの場であり、その雰囲気は濃淡が学力の学校間格差につながる。まず落ち着いた授業に臨める環境を整えるために。」と、米国発祥の「ゼロ・トレランス」を導入したところ見違えるように立ち直ったというものでした。

「ゼロ・トレランス」とは、この程度は許してもよいだろうという感覚、つまり寛容を排し、規範意識を育むため、厳しく臨むということ。

先の女子高等学校では、全教職員が生徒指導に関して、規範に反すれば寛容の余地なく責任を取らせるといった、毅然とした態度、ぶれない指導を行ったことが、学校を立ち直らせたのだと思いました。



本町でも、年度初めの始業式に「基本的な生活習慣の定着と服装等に関する協力について」として、教育長名で通知文を小中学校の全保護者へ渡しております。その通知文にもあるように、児童・生徒の「頭髮、装飾品、携帯電話、触法行為、授業妨害等」について、学校では小中一貫した姿勢で規範意識を徹底して持たせることに、全教職員で取り組んでおります。

絶対に違反を許さない指導が、安心・安全な学校を作るのに、必要だと考えます。そして、安心・安全な学校という環境の中で「学校は学ぶところである。」を原点に、落ち着いて勉強できれば、おのずと学力も付いてきます。このことを桂川の学校教育における柱として、生徒指導を行い、また地域の人たちのご協力の甲斐もあって、学校も随分落ち着いてまいりました。

今後はいま一層の「心づくり」を心掛けたいものです。

キャリア教育としての職場体験学習

桂川中学校校長 山本 和生

今年も本校二年生は、9月14日から職場体験学習を桂川町を中心に、飯塚・嘉麻市の各事業所で実施しました。その様子については、昨年の町報でも大きく取り扱っていただきました。

今年も、5日間連続の計画を立てていましたが、連休にかかってしまうこともあり、4日間の日程になりました。なぜ、4日なり、5日間の職場体験なのかといえば、子どもたちの体験や体験先との人間関係が深まるとともに、子どもたちにとって働くことの素晴らしさ、喜び、厳しさなどの理解が得られ、様々な効果が期待されるからです。例えば、緊張の1日目、仕事を覚える2日目、仕事に慣れる3日目、仕事を創意工夫する4日目、感動の5日目など、時間の長さが生徒一人一人の心に変容を与えます。いつもは家庭や学校で見られない生徒の姿が各事業所や職場で見られ、職業について、働くことについて、多くのことを実体験から学びます。そして、そのことが生き方につながっていく、これがキャリア教育です。

職場体験学習を終えて、保護者から声を紹介します。

○朝早く家を出て、大変だったと思います。家に帰ると「きつい、きつい」と言っていました。すごく良い経験になったと思います。職場の方とも仲良くなったようで、仕事のきつさやつらさ、楽しさが今後の学校生活に活かせればと思います。

○お客さんに尋ねられた時、どんな対応をしたか話してくれました。丁寧な言葉遣いができたこと、最後まできちんと対応していたのでうれしく思いました。人の役に立った時のうれしさを感ずることができれば成果だと思えます(略)。

○貴重な体験になったと思います。事業所が決まった時の喜びから、初めて行く日の緊張と期待。仕事の難しさを学んで楽しかったようです(略)。



▲ファストフード店での職場体験風景。注文の取り方を学ぶ桂川中の生徒たち。